

特 255

262

農業經營改善の話

和歌山縣農會



始





97 255  
262

序

農業經營の改善が生産技術の改良と相俟つて農業改良の兩翼であるにかゝはらず、從來動もすれば生産的方面の改良奨励に偏し農家をして如何に農業を組織し如何に經營を改善せしむべきかに就ては等閑に附せられたるの憾みがある、近時農村の不況頓に深刻を加へ農家經濟は極度の窮迫を告ぐるに至り農村の更生農業の復興は經營方法の改善に基調を置かねばならぬことを一般に自覺するに至りたることは斯業改良の一轉期として又本會が多年經營改善に調査研究指導に微力を致したる上から聊か意を強ふするものがある。

此の機に際し本會は茲に「農業經營改善の話」と題し本會技師をして平易に其要領を演述せしめ之を小冊子とし登梓して同志の農家に頒つことゝした幸に窮迫せるの農業史生の資となり經營改善の同伴となるを得ば満足とする處である



昭和七年五月三十一日

和歌山縣農會



# 農業經營改善の話

## 目次

緒言	1
第一、農業經營要素の研究	1
一、土地	1
二、勞力	3
三、資本	3
四、交通	3
第二、我國農業經營の特異性	13
第三、農業經營改善の要諦	17
一、農業組織の多角化	17
二、勤勞主義と能率増進	17
三、經營の集約化と技術の向上	17
四、自給性の擴充	17
五、經營經濟の記帳	17
第四、農業經營改善の進路	34
一、農業經營の共同化	34
二、生産物販賣の組織化	34
三、農村産業計劃の樹立	34
附	
優良農家の農業經營成績	44
一、穀作地方農家	44
二、穀作柑橘地方農家	44

# 農業經營改善の話

縣農會技師 坂本健吾 述

## 緒言

我國の農業は米麥作とか養蠶とか畜産とか將た又蔬菜果樹の栽培とか農業の部分的に屬する生産増殖の方面に就ては官廳も團體も關係技術員も多年の間銳意指導獎勵に力を盡され又農事試驗場蠶業試驗場等各種の試験機關も整備し其研究も行届いて居りまして著しく生産増殖の効果を擧げて居りますが、偕て農家の農業經法如何を觀察して見ますれば甚だ遺憾の点を發見するのであります。世の中には精農家と一般から推稱されて居ながら其農家の財政的方面が歳と共に却つて反對の結果を示しつつある人が尠なくない様です。此等の人々はその原因には多々あらうけれども多くは稻作増收精農家養蠶堪能者等々の内容に止まり農業全般の綜合的方面に欠陥がある爲めに最後の成績を擧げ得ないのではあるまいか、申す迄もなく農業は一の企業でありますから其目的は結局年度末の合計所得の多寡を以て農業の成功と否とが定まるので、單に一二作物なり動物なりの部分的成績の



みにて律せられませぬ。又國家的には益々生産増殖を急務とするものでありまして農家其人の企業的には之と相伴はざるものがあります。此場合個人的には之を取捨按配するの要があります故に若し國家として獎勵増殖の必要があるならば特別に保護獎勵の政策により農家の企業と合致する様にせらるべき性質のものであると思ひます。要するに一農家としての農業は其經營内容には様々あるとしても一ヶ年後終局の綜合した所得が愈々多きを眼目とするのですから農業要素の種々の事情を考察し時代の趨勢も考へ或は部分的に或は形式上には損失もあり或は粗放的を要する事もありません。世の中には一時的蕪價が廉いとて桑園を廢し米が廉いとて水田を桑園とし或は無鐵砲に果樹を植栽する等農産物價格の變動を以て直ちに經營上に甚しき變化を企つる人がありますが少しく農業經營を研究したならば左様に容易く參るものではありません。此の意味に於て農業經營の研究は農業者の尤も緊切な事であつて農業經營の基礎から出發した内容の改善生産増殖技術的改善でなければならぬと思ひます。然るに農業經營の研究乃至改善獎勵といふ事は從來餘りに取り殘されて居り從て農業經營法の根底に動搖があり農業の指導獎勵に矛盾が出来て來る様な場合があつたことを遺憾に存じます。

我國農業經營の研究は多少學問的に論せられたものは有りましたが、眞に我國農家の實態に觸れての調査研究は大正十三年以來本省の助成により帝國農會農業經營調查部を設け各道府縣農會に專任職員を置き一府縣毎に數農家を選定して農業經營の改善指導及其實績調査並に共同農業經營の指

導調査をなし之れによりて漸やく實際化して參り又一般農家の自覺を促がして來たのであると思ひます。私は斯等の調査材料と先輩の所説などを參考とし茲に農業經營改善の話と題して卑見を述べて當業諸氏の斯業改善の資に供せんとする次第であります。

## 第一 農業經營要素の研究

窒素磷酸加里が肥料成分の三要素である様に農業の經營にも土地、資本、勞力の三要素を要します。此の三要素の組み合わせ方、利用運用方法の巧拙がやがて農業經營の巧拙となり又農業利得の大小ともなるのであります。現今の農業に於ては更に消費市場との交通が又農業經營の方式に少なからぬ關係があります。

### 一、土地

農業は土地を離れては營まれません、從て土地は農業經營の一切を支配いたします。即ち土地の廣狹、土地の種類其割合、土地の所有分配の狀況、土地の性質運搬の便否、地代地價等によりて農業經營の方法を異にせざるを得ないこととなります。

イ、土地の種類。土地に田畑地林野等ありますが水田は農業經營の上から見れば變化性が最も少な



い、即ち其利用範圍が狭いのであります。水田が我國民唯一の食料品たる米の栽培地として、従前は最も尊重せられ、従て法定地價なり賃貸價格なりも尤も高くあつたけれども、米が國民の生存必需品である丈社會政策上から米價を或る程度以上に高騰することを許されませぬ、さりとて生産者として生活の向上なり諸負擔の加重なりから益々米の石當生産費が高まりました農家としては尠くも生産費相當の米價を要求する。又一面朝鮮臺灣等では産米増殖奨励の結果著しく進歩發展し其生産費が内地産米に比して著しく低く而かも米質は敢て劣らぬ状態にありますし、況んや外國米に至りましては極めて低廉に輸入し得るのでありますから國家が重農主義により米價の維持或は水田に對する特に負擔の軽減等の保護政策を徹底的に構ぜられない限りは、今後交通の發達、技術の向上、經營の研究等に伴ひ共に畑地の利用が進歩するに従ひ水田は水稻晩化栽培の如き挿秧期間の延長等が實際化されない限り比較的其價値を低下し或は尠くも向上せぬものゝ様に思はれます之れに反して

畑地 は經營的變化性の最も大に利用範圍が廣く往昔の自給經濟時代には殆んど顧みられなかつたけれども交通機關が年次整備して交換經濟が發達するに連れて畑地の利用性を増し收益が多くなると思はれます。都會附近の如き一ヶ年に六七回も蔬菜を輪栽し尤も集約に利用せられて居るものもあるやうです。

然し之れを果樹園の如き永年作物を栽培することになれば、殆んど變化性なくありますから此

の場合其經營が最初に合理的に計畫せられ好都合に行ひ得る所は有利なる經營となりますが、若しも當初土地の撰定を誤まり或は設計が杜撰であつたり、作物の撰擇が適せなかつたりした場合には知らずくの間損失が重なり遂に全く失敗に陥る場合がありますから、園地は特に經營當初の周到なる研究と調査が必要でありますし又經營後生産物の市價が一時的暴落におびいて直ちに改廢すべきであります。

ロ、耕作反別 我國の農耕地は農家戸數の割合に極めて狭少であります即ち耕作地分配の有様を統計によりて觀ますれば

耕作反別による農家割合	
全 國	本 縣
五反歩未満	三三、〇
五反歩乃至一町歩未満	四八、二
一町歩以上二町歩未満	一七、六
二町歩以上三町歩未満	一、七
三町歩以上五町歩	一、三
五町歩以上	〇、四

即ち我國農家の耕地面積は一農家五反歩以上一町歩が大多數を占め總平均一町一反歩であり、本縣では平均六反三畝に當つて居ります。一農家が幾何の土地を耕作するのが農業經營上最低限度とするかは種々の事情によりて異なり



ますが一農家の労働に従事することの出来るものを二人半として專業的に自立し農業を爲し得る最低反別は高岡熊雄博士は一町五反歩と謂へ帝國農會の岡田温氏は水田六(二毛作)畑四割(二毛作)とし普通の穀菽栽培として水田八反歩畑地七反歩は自家勞力で充分經營する事が出来る謂はれ、若しも全部一毛田地としたなら二町五反歩を要すると申されて居る。是の故に普通一町五反歩以内の耕作經營では他に果樹とか蔬菜とか農産加工動物飼養等の副業を求むるか又は集約な土地利用の經營法を採るのでなければならぬと思はれます。

ハ、耕地の集團 我國の農業は農家集團耕地分散であり外國は概ね農家分散耕地集團の形である様である何れも農業經營上得失はあるが成るべく農地を集團する事は幾多の便益がある。那賀郡小倉村の湯川郁太郎氏は其供用勞力が殆んど經營主と妻との二人にて二町二反餘を耕作して有利に經營して居らるゝのは(農業經營優秀の故を以て一昨年財團法人富民協會より表彰せられたるもの)種々經營法の改善に基づくものがありますが多年の苦心によりて耕地を集團せられたことが預かつて力あることと存じます、ですからして農家は宜しく實行組合其他の共同申合せによりまして各自が耕地を成るべく二三の箇所に集團せしむることが極めて肝要の事と思ひます。

## 二、資 本

建物や農具役畜植物諸材料等の如き固定資本と種苗肥料藥劑原料等の如き一時限りの流通資本と

があります。固定資本の内にも植物又は動物の如きは最盛期迄は其資本價值を増加するけれども其他は凡て其價格を減損して遂には必らず之を補充することを要する。經營者は之れが手入補修其他の注意によりて其使用年限の延長に努むべきであります、毎年其減損量に對しては之を評價して支拂ふ(積立る)ことを要する。之を資本の償還と謂ひます。

イ、建物資本 我國の農用建物は之を住宅と兼用せらるゝものが多い。けれども住宅と納屋との兼用は材料の關係から必らずしも經濟的でない而かも非文化的の生活であるから將來は住宅と農舎とは相當分割せらるべきものであると思ふ。即ち農業者と雖も國家の一住民である限り文化に伴ふ生活を要望しますから現在の様な農舎兼用の住宅では將來到底満足されまい。故に住宅は寧ろ其規模を必要な程度に小薩張りした衛生的であり文化的として挿花や盛花などもたしなむことが出来る藝術味を びた生活を爲し得る様にし農舎は別に目的に適ふ程度の粗材料で設備する様考ふことが必要と思はれます。

農舎の坪數は幾何を標準とすべきかは帝國農會の米生産費資料調査に表はれた處に據りますれば一町歩以上一町三反歩程度の耕作で現在一町當り農舎(納屋其他の農用建物)の面積は十七坪程である。納屋の坪數は要するに一ケ年の内で最も廣き坪數を要する作業が故障なく行ひ得るに必要な坪數が最少限度の坪數であります。茲に注意を要しますのは農家は固定資本に對して其維持に關する智識思想の缺けて居ること、納屋でも畜舎でも或る年限に達すれば改築せなければなりません。



此の年限を維持年限又は使用年限と謂ひます。即ち

建築費 二 償却金  
維持年限

でありますから毎年此の償却金(維持費)を積立つる必要があります。我國の農業は資本と企業とが分離することの出来ぬ組織でありますから建物費の金利までも計上する必要は無いと思ひます。

建築物資本調査 (帝國農會)

經營面積	住宅		作業場		畜舎鶏舎堆肥舎		倉庫物置	
	坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格	坪數	價格
近畿平均	一六、〇一五	一、七〇、〇八	一七、〇	六八、八九	二〇、六	三三、七八	六、五	三〇四、六五
全國平均	一七、八二〇	一、二六、七九	一四、〇	四三、五五	二〇、二	三三、一〇	四、五	二八六、六〇
近畿平均	三四、九〇五	三〇、二	二二、七九、七〇	二六、三	六八、九五	二九、六	六八、九二	七、三
全國平均	三四、五二〇	二六、四	一、一四〇、〇六	一八、〇	七四、三三	一九、一	四八、二四	七、八

ロ、農具資本 農具は農業者の武器でありますから其選び方、使ひ方、手入法等に最も注意を要する。故に常に能率の揚がる進んだ農具を設備し且つ常に其手入を怠らつてならぬ事は言ふまでもない。さりながら徒らに新奇に走り實用的價値のないもの、購入は避けねばなりません。大農具の如きは共に設備し之れが利用によつて農具費を節し得るのであります。

農具資本は建物資本と同様に原價を其使用年限で除し償還金を算出して其年額を年々蓄積すべき

でありますが一農家の一ケ年の農具費は其年に新調した小農具の代金、其年の農具の修繕費と大農具(犁、唐箕等の様な)の年割償却金の合計を以て其年の農具費とするものは輕便であり大差のない方法であります。

ハ、動植物資 動物並に永年作物に於ても農業經營上其増價の場合は勿論其増加額を加ふる代りに其老衰減耗するに至れば其減價額をも計算して收支經濟を見なければなりません。

帝國農會が二町歩以下の小農に就き各資本の割合を調査したものに據りますれば

各農業資本の割合

近畿地方	土地	建物	農具	動物	植物	現物	計
割合	一四、七五六	二、四六五	三、七四	五、七	六、五八	一、七三	一九、〇一一
全國	七、七五	一、三〇	二、〇	三、一	三、五	〇、九	一〇、〇
備考	右耕地反別平均は近畿地方一六反五〇〇、全國一七反四一二で土地資本は時價に依りたるものです。	七、五二	一、三六	二、六	一、八	五、七	一、一

三、勞力

農業經營研究の中心は何としても勞力問題で有ます。勞働には企業的勞働と雇傭勞働とがありま



す企業的労働とは経営主及び其家族が精神筋肉兼用の労働を以て自己の計畫自由意志によりて働き而して其の労働報酬は他の生産に要したる諸費用は支拂ひたる後に得らるゝ労働でありまして普通は労賃と利潤とを包含するも時には利潤もなく労賃にもならぬこともある性質のものでありまして又雇傭労働とは普通の所謂労働で雇主の命によりて勞役に従事し之れが事業の利害には全然關係せなくて一定の約束した賃銀を得るものであります。

我國の農業労働とは即ち前者の企業的労働を主とし後者の雇傭労働は農業上普通關係の比較的輕きものであります。従て現今所謂労働運動なるものと我國の農業労働とは極めて交渉の薄き縁遠いものと見らるゝから農村労働問題を論議せんとするものは須らく此の邊の事を心得て都市労働問題と區別せられ漫然其渦中に投ぜられぬ様致し度いものです。

企業労働 としては一日又は一人の勞賃がより高きを望むよりも經營期間中言ひ終ふれば一ヶ年間の勞賃即ち一家族全体の勞賃問題に其重點を置かなければならぬことになりまして。農業收支計算の形式の上には家族の勞賃を支出と収入とに算入するけれども若し勞賃を無意義に節約した場合に假設の生産費は減少するけれどもそれは却て夫れ丈けが其農家の實収入の減少となる事があるから結局經營の改悪となるのである。故に我國の如き小農經營では如何なる場合にも勞力の節約は其節約された其の勞力を他の方面に用ひて収入を計る途のない限り収入の減少となるのであります。要は小農に於ける所得の大部分は労働の報酬であり勞力は収入の源泉であるか企業的農業の勞力は

節約が其問題とはなりません。即ち

- 一、成る丈多くの日數を農業のために働くこと、時間的労働の延長とも申します。
- 二、家族の凡てを農業に参加し働かしむること、家族的労働の延長と申します。
- 三、一人一人の労働の性質を吟味し其効果を大ならしむる様適所に働かしむること。
- 四、労働に従事する家族の各をして企業的智識の向上を期すること。
- 五、労働の節約は他に代るべき仕事がある場合に限るものであり又代るべき仕事の伴ふことを要すること。

等は企項業的農業労働の上に於て極めて必要な研究事項であると思ひます。家族の勞賃計算方法には種々の議論がありますが臨時雇の賃銀に準ずるのが適當と思はるゝ。何となれば常雇の目的は農閑な時期ではなく農繁な時であるから常雇一ヶ年の賃銀を平均して其日當を算出して家族の勞賃に當てはむるのは多忙有要期に於ける家族勞賃の計算法として當を得ぬと思はれます。

#### 四、交 通

交換經濟の發達に連れて販賣を目的とする農業の生産が愈々増加致します。従つて大消費地たる都市と農村との遠近就中相互間の交通の便否が農業經營の様式に少なからぬ支配力を有することゝなります。交通運輸の便が開けない時代には都市に於て消費せらるゝ農産物は概ね其近郊から仕向



けられ又唯一の供給地と視られて居つた故に交通の不便な遠方の農村では例へば宅地、空地利用等に屬する僅少の果物蔬菜等は自家供用以外は單に隣保知己縁者に贈る位で商品的價値が無つたけれども都市の膨脹と交通の運輸の便が開拓せらるゝに連れて都市との遠近による農産物取引の支配力が薄らぎ換言すれば從來都市近郊の獨占であつた蔬菜果物等も交通の便ある限り相當遠方にも都市との取引を目的に生産することが出来る様になります。そこで從來此等の特産地は動もすれば衰亡して氣候土質に優逸性があり仕事の改良が熱心である所には新興特産地を生ずるの事實を齎せませす。即ち農産物の特産地なるものは今日では常に移動するものであるとも言はれますが彼の京濱市場を獨占して居つた有名な千葉の南瓜を日向南瓜が數年ならずして京阪神市場は勿論遠く京濱市場に突進して之を驅逐しつゝある如き、甲州葡萄が大阪其他の生産出荷に壓迫せられて居るが如き或は有名なる京都の筍が徳島産のために阪神市場より逐はれ、關東各縣の白菜が宮城白菜に占領せられ更に全國都市に其威を逞ふしつゝある如き事例は今日枚擧に遑がありません位であります。此等は天慶と栽培法及販賣改善の結果でもあるが交通運輸の便が運賃の低減となり、又新鮮なるものを容易に市場に出荷することが出来る様になつた御蔭で即ち鐵道自動車等の運輸機關の發達は其地方の農業組織の中に販賣を目的とする都市向の生産が加味せられ從來現金收入上何等の價値が無かつた宅地空地の果實も或は蔬菜も更に他の耕地に迄擴張せらるゝことになる等、農業組織に變革を齎らすことになるのであります。

## 第二 我國農業經營の特異性

農業の經營には資本主義の經營と勤勞主義の經營とがあります。前者を資本家的經營、後者を家族的經營と稱する。此の専ら雇傭労働による家族的經營との相違が農業經營に關する諸問題は勿論農業政策社會政策其他農業上一切の問題を考察する上に其重點をなすもので、この兩者の觀察が混雜して考ひらるる場合は其の施設なり經營なりを却つて不利不合理に陥らしむるもので其類例に乏しくないと思ひます。而して我國の農業は實に勤勞主義の家族經營であることを忘れてはなりません。

資本家的經營は總生産より種子、肥料代、農具費、建物費、諸材料、租税、地代及勞賃等を支拂ひたる殘餘即ち企業益を目的とし又生産物の大部分は販賣を目的とするものである。多額の資本を要します關係から少くも二三十町歩とか五十町歩とか大農組織でなければ經濟勘定が成り立ちませぬ。故に我國の如き耕地が狭少なる處では其例は極めて稀であり且つ概ね成立し難い様であります。

我國の小農組織を歴史の上から考察しますと古來より小農組織であり勤勞主義家族的經營制度に據られて參つた様であります。即ち孝徳天皇大化の改新に於て班田法なるものを初めて制定せられ



男女生れて六歳に達しますれば男は一人に二反歩、女子は其三分の二を授けられ六年毎に調査して各一口分を授けられた様であります。當時の一反歩は今日の一反二畝二十二歩に當ります。それが豊臣時代には一反二十九畝二分五となり。徳川時代には今の一反歩と改まりました。即ち大化の口分田は一家六人としませれば一戸の受くる田地は男三人で六反女子三人が四反歩合計一町歩で現今の一町一反七畝十歩に當ります。昭和元年の我國平均一農家當りの耕地反別は一町一反であります。之によりても考ひまするに我國は古來家族制度であり、田地も亦家族數に應じて與へられた歴史即ち家族の勞力で經營し得る範圍の小農制度を理想としての土地制度なり租税制度なり、村落制度なりが定められました。即ち平等主義、生活安定主義、家族小農主義の根本方針の元に發達して來たものと見ることが出來ます。而して其經營主即ち戸主が一切の經濟を支配して居るのでありますから一面から見れば家族的共產主義とも見ることが出來ます。

家族的經營の特徴として考ふるに家族主義經營にありて家族は勞働者でありますが一側からは又企業者たるの自覺を有して居ります。時に或は雇傭勞働者よりも低き報酬の場合があり得るのであります。抑も家族勞力なるものは其勞働の性質が多岐多様であり、能率に大小の差がありますから其適用する場面は廣ひ又家族勞働の総合的能率増進の餘地を多分に有して居る。又雇傭勞働としては値打

ちのない勞働の性質でも家族農業は之を有効に利用することが其特徴であります。消費經濟方面に於ても其自給的範圍が廣いから一家の經濟を支持するのに比較的たやすき處があります。従つて昨今の様に一般經濟が不況のどんぞりに陥りましたも自給的範圍の擴大が出來ますから其對抗性が強く所謂弾力性に富んで居るのは家族的經營の強みであります。

我國の様に與へられたる耕地面積が極めて狭少であり耕地を廣めて經營することが有利と認めましてもそれは容易に否な殆んど絶對に此の希望は達し得られない様な農業でありますから經營者は良く各種の動植物各種の作業を取り入れて集約的なる經營を極度に實現して以て單位收入の増加を期することを要すると思ひます。家族經營は經濟記帖の取扱方には兎も角として勞働報酬と企業收入とは全々農業所得となり得ますが故に稻なり麥なり其の部分的には企業益がなく勞働報酬が僅少で計算的記帖的には損失となりましても多少なりとも勞働報酬が得らるゝ限り所謂働かざるに優るで農閑時には矢張り其作業が必要でありまして單に部分的の經濟如何を以て直ちに之を損失なりとして放棄することが出來ぬ處に資本的經營との相違點がありまして即ち勤勞主義が又一の特異性を見らるゝのであります。

今資本主義經營と家族的經營と經營理論上の相違點を比較しますれば、

一、資本的經營は資本を以て勞力に代へることが經營費を減じ利益を増加することが出来るが、家族的經營は自給肥料の増製とか管理手入の集約等勞力を以て資本に代ゆることにより經營費を輕



減し利益を増加することが出来る。

二、資本的經營は勞賃以下の如き價値の低き作業は之を省略し勞力を節減するが改善となり場合に  
より多少は生産量を減少しても其失ふ處は支拂ふ勞賃よりも少額なる時は尙ほ有利なる改良であ  
るが、家族的經營は勞力の賃銀は支拂はぬから勞力の節減は經營費の輕減とはならぬ加之勞力は  
収入の一大要素であるから収入の根源を節約し減少する程年度末の總決算が所得の減少となる。  
尤も他に有利なる仕事がありて節約するのは勿論改良であります。

三、資本的經營は勞賃が安ければ夫れ丈利益が多ひ故に成るべく勞賃の低廉を希望する従つて經營  
問題は重大であるが家族的經營は家族の勞賃を計算上高く見積つても安く見積つても利益の増減  
には關係がない。生産者としては支出だが勞賃としては収入であるからである。只雇人を加味す  
る經營では其部分丈が資本的經營と同様であります。

四、資本的經營の勞賃は契約で一定の額を一雇人に支給するのでありますから成るべく多くを働か  
せ度い、従つて労働時間問題も重大であるが、家族的經營では小規模ながら企業形式を備へ  
たものだから多く働けば多くを利し少なければ利益が減少する故に勤怠の得失は全然自己の負擔  
であるから労働時間問題には何等關係がありません。

要之我國に於ける農業經營の特異性は一、古來の制度上より小農家族的經營であり。二、農家の  
耕地面積は極て狭少で更に之を擴大する餘地がない。三、一農家の耕地でも地味地勢を異にし従て

栽培する動植物が多様なるを要する。四、勞力は家族であるが故に其性質も亦も多様である。五、  
耕作地の割合に勞力が潤澤であるから勞力的集約を要する。六、耕地狭少であるから集約的農法に  
より單位生産の増加を必要とする。七、農家は概ね集團して耕地が分散して居る。八、生産費を多  
く要し従て其企業益が低く或は全々働勞報酬程度に過ぎない場合がある。等により我國農業組織は  
勤勞主義の家族的農業經營と稱すべき特異性を有するのであります。

## 第三 農業經營改善の要諦

### 一、農業組織の多角化

農業組織とは種々の要素を最も合理的に組み合わせ經營全体の総合的計算に於て最大の利益を收得  
する形態に組み立つることあります。

我國の農業は前に述べました様に勞力集約であります。土地は之を取得するに限度があります。  
只努めて經營に必要な程度の田畑園地等を耕作することは望まじきことであります。が容易でありま  
せぬ。然るに勞力は家族全体が働かなければならぬ農業の所得は家族の勞働報酬と僅少の企業益で  
あるを普通としますから、何よりも家族労働報酬の年度末集計に於て最大の收得を目標とすること



を緊要とします。家族の労働には家族たるの本質上強き筋肉的労働に堪ゆるものと、然らざるもの緻密な労働に適當するものと、粗放的性質のもの、家内労働にのみ適するもの、臨時的間歇的のみ労働に服し得るもの、智的勞力に富めるものと、然らざるもの等多岐多様に亘つて居ります。又農業を組織する動植物より觀察しますれば各々季節的に繁閑があります。

即ち前に述べた様に多種多様の性質を有する家族の勞力を最も有効に最も多量に而して最も長期に亘り更に家族の各々に季節的の繁閑を成るべく少なくし平均的に農業の生産に働く様仕向け工夫することが結局家族をして農業に最大の労働に従事せしむることが出来又其年末總決算に最大の報酬を得るの所以であります。即ち家族的に労働の延長、時間的に労働の延長、此の兩方面が遺憾なき様農業要素を組立つることが緊切であります。

此の目標を達成するには其要素の各別には或は又形式の上には收支が相償はぬものがありとするも例令若干の労働報酬があり。又他に代るべき仕事が見附からぬ以上は各種作物を配合按配して以て年中閑暇がない様に或は努めて尙少ならしむること。又適當の動物をも飼養して家族中特有の性能を利用し兼ねて小閑をも尙ほ且つ生産のために働かしむることである。斯くて家族の性能を適所に遺憾なく働かしむるやう考へて従業する様にすることが大切であり、之れがやがて土地の利用を完からしめ、資本の運用を充分にし一面資本の回収も容易に圓滿にし、かくて生産物相互の利用が行はれ農業經營の安全性が持續せらるゝ所以であります。

此の故に農業者が徒らに局部的に或る作物或る動物の部分的收支計算に捕はれて諸種の連鎖關係を研究することなく其収益が尠少なる理由を以て漫然と之を廢止して有利なる他の方面に之を轉換して農業組織を單純化することは如上の理論に反し部分的には有利なるべきも綜合的に所得を減じ不利を招き、或は消費經濟を亂し農業本來の安全性弾力性を減殺し土地利用資本の運用宜しきを失し就中我國農業の重点である家族の勞力利用を破壊し其報酬總量を減じ終局の失墜を免れぬものであります。世間往々精農家と稱し、或る作物又は動物の生産増殖に技術が秀逸して世人から稱揚せられて居りながら其の人の農業經營の總括的成績が良くなく却つて其資産増殖の相伴はざるものがあるのを見聞しますが此等は所謂單純なる或る種の技術を誇りて農業經營的知識を缺乏し單純なる經營をなし綜合的經營即ち多角的經營に意を拂はざるの結果に基くものと思ひます。

昨春來農家經濟が極度に窮迫し、經營經濟が各地共に不況を嘆ぜられて居るが其現象を伺ふに全國中尤も早く其の窮狀を暴露したのは養蠶業を主体とする所謂單純經營地帯である。長野縣、群馬縣地方の農村であり之に反して稻麥、養蠶、養鶏、蔬菜、園藝等各種動植物を取り入れ所謂多角形農業を営まれつゝある。愛知縣地方の農村は全國に於て比較的其困憊の度軽く其影響も甚だ晩かりしと稱せらるゝは此邊の消息を如實に物語るもので農業者の採りて範となし將來の農業經營に資すべきであると思ひます。

凡そ農作物栽培又は動物飼養の仕事は概ね一ヶ年に一回、多くも二三回の經驗を重ね得るに過ぎ



ませぬ。而かも自然を相手とする農業の事であるから改良したる合理的技術も確然と之を成績に顯はるゝことが尠ないものであります。多角的農業組織とするために新らしき動植物を取入るゝ場合に當りまして一年や二年の成績で直ちに之を判断し其成績が揚らぬからとて之を廢棄し遂に多角的に入ることが出来ない農家が尠ならずある様に思はれます。又農産物價格の低落におひて斷然其動植物を廢止し折角の經營組織を亂す農家がありますが之れは誠に心得違ひと思へます。如何なる動植物でも之を數年繼續經營して初めて一人前の技能に達し得るものである事は從來の稻麥養蠶等に就て考ふれば明かな筈である然るに一、二回の失敗で之を廢止する様では到底經營の改良新動植物の取入れは出來様筈はない。又農産物の市價なるものは常に波動をなすもので恰も水面の波と同様である。低落の次には多くは高騰が伴ふものでありますから就中尠からぬ資本を投じ永年計劃に屬する果樹とか養蠶の如きに於て其伸縮改廢は種々の經營要素の關係を究め周倒なる考慮研究の上初めて決定すべきで左様に敏感に過ぎてはならぬと思ひます。

## 二、勤勞主義と能率増進

營業としての農業經營を觀る場合には一ケ年に於ける農業經營の總決算に於て純益即ち企業益が伴ふべき筈であります。我國の如き過小農業に於ては相當良好なる條件の元にあつても企業益なるものを見出すことが六ヶ敷く寧ろ家族の勞働報酬が比較的割合良く行つて居るか否かの程度であ

り近年の如き農産物價格の下落せる時には其勞働報酬さいも極めて僅少の額に止まる場合に陥りつゝあります。此の意味からして我國の農業は割良き勞働報酬換言すれば一ケ年の經營決算に於て出來得る丈け多量の家族勞働に従事して其集積の愈々多からんことを目標とする家族勞働報酬の年額増加にありと信じますから農業者は絕對的に勤勞第一主義から立つのでなければ我國の農業は進展しないと思はれます。申すまでもなく勞働に對して昔しは之を賤しきものゝ如き觀念であり世間が左様に心得て居られたが文明の進歩に伴ひまして文明人は勞働は貴いものであると觀ぜらるゝ様になりました。「働かざるものは食ふべからず」といふ主張が高くなり有閑階級を卑下し不勞所得者が世の人から卑まれる様になりつゝある今日況んや農業の本質特徴から考へて勤勞主義を缺ける農業經營改善は結局成效覺えないものと觀念して愈々益々勤勞主義を高潮し苟も多少なりとも勞働能力のある家族は凡て農業勞働に遺憾なく従事する様せなければならぬ茲に農業經營多角化の要を痛感する所以があると思ひます。

次に重要なのは勞働能率増進の研究であります。勤勞主義も單なる勞働ではならぬ合理化せる勤勞、より有効なる様な勤勞に研究改善せなければなりません。勞働能率の増進法には技術的方面の研究改善と共同的施設方面がありますが茲には一般的方面に就て述べて見たいと思ひます。

勤勞の效果は

筋力(筋力+智力) (筋力+智力+意志の力) (筋力+智力+意志の力+徳力)



即ち單なる筋力に智力が加はれば一段の能率を増し更に自己の農業を自覺し企業的に理解せる觀念意志が加はれば一層有効化し士を愛し動植物を愛し神の仕事たるの趣味信念化したる元に現はるゝなれば實に勞働の最高潮であると思ひます。即ち農業經營主は勿論のこと従業者に農業に對する信念趣味を有せしめ企業的觀念を有せしむる様致したいものと思ふ。

**勞働に適材適所** 家族の勞働素質に各様なるのは我國家族的農業の特徴であるから此の特徴の利用は極めて重要な事であります。農業の多角化の要は又一面此の各相違せる勞働素質を遺憾なく適材適所に働かしめ以て能率の向上を期せんとするがためであります。此の故に私は家族をして分擔せる仕事に就き各々技術的研究の餘地を與へ又或る程度の企業的自由を認め又自家農業の經過並に結果を知らしめ以て其自覺發奮に資することが肝要な事で養蠶の仕事の如き婦人に適當な仕事は婦人に任せ婦人自らをして講習講話にも出席し研究向上せしむの餘地を與ふる様に仕度いものと思ふのであります。

**不生産的勞働の整理改善** 農家には家事方面に社交儀禮方面に又不規律なる生活や農業勞働方面に習慣方面に不生産的な勞働が相當に存在すると思ふ是等は充分に研究し整理し改善して勞働力を擲出する事が緊要なことと思ひます。如何なる農家も遊んで居る時間は無いと言はれます又確かにそうである只夫れは無駄な勞力、工夫なき勞力が澤山に取り殘されて居る事があります。良農は勞働を貴重なるものとして利用の最善を盡しますが一般農家は此の方面に大なる欠陥がある。吾々は

此處に自覺し着眼して整理工夫改善せねばならぬと思ひます。縣農會の調査により推測しますと普通農家は農業のために働く一ケ年の延日數が經營主が百八十日乃至二百日、主婦百五十日乃至百八十日位でありまして其他は生産に關係なき勞働であり休養日數でありますから、茲に着眼して不生産的勞働の整理節減をなし農業勞働の増加を期することが緊切と思はれます。之を要するに吾々の崇拜する山崎延吉先生が農家の農業勞働は年三千時間を目標とすべしと勤勞主義を極度に高潮せられて居りますが誠に同感であります。縣農會の指導せる模範農家那賀郡小倉村の湯川都太郎氏は男女二人で二町一反を耕作し年農業勞働時間二千八百四十一時主人が二千九百四十八時妻二千七百三十三時(子供三人あり)であり、有田郡藤並村林隆一氏は從業三人平均二千四百二十一時主人が二千九百四十五時妻千九百七十五時(子供四人あり)であり四ケ年平均普通農家(比較的良農)年二百一十一日に對し前記湯川、林兩家平均は二百七十三日即ち約三割増しとなり兩氏共年三千時間勤勞主義を實現して居ります。斯くて現今の不況時にも係らず綽々として之を切り抜けられて居る次第であります。

**畜力改良農具の利用増進** 農業と養畜とは離るゝことの出来ないものであることは申すまでもない。本縣の農家は其三分の一は皆な牛を飼ふて居らるゝ即ち純農は必らず牛を飼ふて居らるゝが猪て其牛の經濟的關係を視るに犢の生産、育成、肥育、厩肥の生産等をなすも役畜としての利用状態は甚だ僅少で普通一ケ年間に延二十日位に過ぎぬ様である。



即ち本縣の優良農業經營者である那賀郡小倉村の湯川氏の二毛田一町八反、畑地三反に於て良く利用されて居る人でさへ三十五日であるから如何に畜力利用上に餘地欠陥があるかを伺はれると思ふ。此の故に農家は宜して役畜利用上に一大工夫を凝らし單に耕耘用に止まらず米麥の調製に製粉等の農産加工に、運搬駄載等に大いに之を利用して労働能率の増進を期すべきであると思ふ。

畜力の利用と併び必要なのは改良された農具の利用であります。農具は恰も軍人の武器と同様であるから常に之が改良に工夫し手入を怠らず又優良農具を使用して能率の増進を圖る事が必要である。大農具即ち農用機械になりますと農繁期の能率増進或は新らたなる加工利用上甚だ有効であるが、然らずして無意義に之を設備利用した結果餘剩努力の仕向け方を考へない時は眞の利用効果を擧げられぬ事になる場合があるから此等を考慮研究の上決定することが必要であらふ。

### 三、經營の集約化と技術の向上

土地は絶対に經營規模を決定する我國の農耕地は増加の餘地が極めて乏しい。農家戸數亦必らずしも減少せない生活は向上する家族の努力は從來に變らぬ供給力を有する。然らば我國の農業は平面的に増加することが出来ぬから之を立体的に増加を期すること即ち勞力的に資本的に之を集約化せねばならぬことは必然的の要求とせねばなりません。即ち一は組織の多角化によりて二には勞力資本の集約化に據りて單位收量の増加、多毛作の經營或は生産物の加工精製等によりて同一面積に

てより以上の収入増加を期せなければなりません。

尤も農業には收益遞減の法則と稱して勞力資本の集約は或る程度を越ゆれば却て收益を減少する法則に支配せらるゝけれども、我國の家族的經營にありては資本主義的經營と異なり労働収入は即ち農家收益の重要な位置を占めて居り例令一日當の労働賃は低下しても労働日數の増加が年末總決算に於て労働収入の増加となるのであり間斷なく家族を働かすことによりて所得を増加するのであるから今日の農業状態より觀察すれば此の收益遞減の法則に支配せらるゝ迄には尙ほ距離がある殊に精米、製粉、壓し麥其他農産加工副業方面に於て集約化の餘地は尠なからず取り残されて居るものがあると思ふのであります。

農業經營の集約化には必らず農業技術の向上練達を必要とする。即ち技術の練達するに連れて收益漸減の鐵則範圍は相當に擴大せらるゝ餘地を存する。帝國農會が全國の優良なる農家七百五十四戸に就き昭和五年の米生産費調査によると一反歩當り概ね四石の範圍内に於ては一反二十圓の相場として「收量の大なるものは所得額も亦大なり」「收量大なるものは生産量も亦廉すし」といふ結論を與へられて居る。又本縣農會の小麥生産費調査に於て甲農家の平均一反歩當り收量が二石一斗で一石生産費が十二圓八錢に相當するが、乙農家の平均收量は二石六斗一升で其石當り生産費は十一圓十九錢に當り前者に比して一石に付八十九錢の低き生産費である。

即ち技術の向上は收穫漸減の法則範圍を擴大する資本を多く投じて收量の多きを望むも栽培技術



が之れに伴はぬ場合には却て右の法則に支配され又匍伏病害虫等の被害を免れず却て非常の損失に陥るの例は増収競争等に於て屢々認むる處であります。而して果樹蔬菜等の如き特殊の作物に對しては技術上の向上する程肥料資金を多く投下し除害其他に勞力を多く投ずる丈夫れ丈良質多量の生産を齎らし販賣市價を向上し益す、収益を増加し然らざれば却て損失を來すものもある。本縣の柑橘栽培の如きに至りては特に著しきものがある。技術幼稚にして投下する資本勞力の少なきものは其生産額極めて少ない計りでなく其生産物は市場に何等の値打ちなく之に反し多肥にして手入集約に技術堪能なる場合は數倍の生産と市場に於て其單價が著しく高値に販賣せられたる實例は極めて多いのであります。例へば縣農會に於て大正十五年より二ヶ年間の温州に於ける生産費調査に據れば那賀郡上名手村の甲農家は六町歩を栽培して反當利益(勞賃を含む)七十圓六十錢有田郡糸我村乙農家は八反一畝歩栽培で反當利益七十九圓七十錢なるのに同郡宮原村の丙農家は一反八畝の栽培で反當り二百四十一圓九十三錢といふ驚くべき利益を擧げ外に水田二反五畝に稻麥栽培と桑園七畝歩による養蠶とにて優に一家を經營して居ります。此の丙農家の如きは實に本縣に於ける尤も技術堪能なる集約的柑橘栽培家である結果が、如上の成績を掲げて居らるゝのであります。

自給肥料代	九、八〇	購入肥料代	七八、七〇	計	八八、三六
農具償却金	四、五九	諸材料	八〇、四七	農舍費	五、五五

勞力 費(九八、一)一七八、九八 合計 三五九、八三で温州八百十貫此の賣上金四二二、二九となつて居る次に農業經營を多角的ならしむるためには新らたなる動植物の取り入れを要する。然るに農家は養鶏なり蔬菜なり此等新動植物の飼養なり栽培につきて當初僅かに一二回の失敗に懲りて之を廢止するものがあります。斯くの如きは到底經營の改善は覺束ない從來の稻作養蠶でさえ永年の經驗でも尙ほ且つ欠点を見出すのであるから農家は充分に調査研究して幾回かの經驗に俟ち心捧強き決心を必要とします。

又技術向上と申しましても單に經營主丈ではならない分擔する家族夫れ、が技術向上に努力すべきで婦人の分擔が養蠶であれば絶へず主婦に養蠶研究の餘地を與ふるを必要とし老人が果樹蔬菜養鶏が分擔なれば此の方面に研究を導くことが即ち經營主の常時心得べきことと考へます。

一概に技術の向上と申しましても經營と相關的研究を必要とします。從來局限されたる稻の植付期間の如きも徒らに從來に捕はるゝことなく例へば所謂晚稻晚化栽培の如き以て稻田を更に三毛四の工夫或は温暖なる氣候を利用し早熟蔬菜或は冷涼地利用の抑制蔬菜の栽培もあります。即ち經營毛作とする的生產技術の研究向上も必要と思ひます。

#### 四、自給性の擴充

縣農會の調査によれば本縣普通中等農家に於ける自給性は家政費に於て四割乃至五割、農業經營



費に於て三割乃至四割五分に達して居り家政費では飲食費の大部分が自給で農業經營費では肥料飼料種苗加工品等に主なる自給力を以て居る様である。而して現物支出即ち自給力擴充に思ひを盡す農家は常に優良なる經濟を現はし農家經濟に、より多き餘裕を持つて居ることを發見します。交換經濟に於ける農業經營は現金收入の増大を計ることが重要事であるが之と相伴ふて一面自給性の擴大を努力することが殊に現下の農産物の價格が極度に低下せる時、農業經營上又家政經濟上の重要事と思ひます。農家の自給性は實に與へられたる農家の弾力性であり特質として農家は大に考慮を拂ふて經營を計畫せなければならぬものと思ひます。

**自給性と經營との連鎖** 農業經營上に其自給性が極めて微妙なる連鎖關係があり之れがために農業に弾力性があり不況時に對抗性のあることは見逃がすことの出来ない事實であります。稲作が食料自給たるは勿論副産物たる粟稈は敷藁として養畜を取り入れ毎年二三千貫の厩肥と化して地力維持増進の資源となり金肥の經濟を齎らし或は養蠶の糞繩と化し桑園の基肥として養蠶經濟を維持して居る。蠶種一枚からは七十貫の蠶糞肥料を生産し毎年改植の桑園より自家用燃料が出来る。鶏一羽で七八貫の糞を産し百羽養鶏で七八百貫窒素十五貫刈耕地三反歩の肥料分が優に生産される。各種農産物の屑物は牛豚や鶏の飼料として其經濟に寄與する等數へ來れば自給性との連鎖關係は甚だ廣く相寄り相助けて総合的經營を形成されるの妙味があり茲に經營改善の着眼点を忘れてはならぬと思ひます。

**經營改善と自給肥料** 土地を離れて農業なく土地を荒して農業亡ぶ須らく良農は子孫のために美田を造るの覺悟がなければなりません。今關博士の實驗によれば西ヶ原の腐植質地に於てさへ毎年三百貫の有機物を施用するでなければ地力は年次減退すると謂はれた況んや一般の砂質地其他の土地に於ては一層有機物の増産増施は農地培養の根底であり生産の基礎である。近年土壤中微生物の研究せらるゝに連れ土中に於ける有効微生物繁殖を農業上極めて重要視されて参りました即ち微生物の繁殖は土壤を肥沃ならしむるが故に農家は施肥耕耘上尤も此方面に注意を拂ふべきであるが畢竟微生物を増殖せしむるには土地に有機物を増加する事であり金肥の効果を益々大ならしむるには有機肥料の力に俟たねばならぬ。即ち農業が如何に進歩すればとて有機肥料は基肥であり金肥は補助肥であらねばならず如何に集約農業なればとて農家は反三百貫以上の有機物肥料を生産し施さなければ農地は荒廢する。斯の故に農業者は先づ以て有畜農業の經營により厩肥の生産を増大せねばならぬ而かし厩肥の生産力には限りがあるから茲に農家は綠肥の重要性を自覺し肥料作物栽培生産をせねばならなくなつて來たのであります。稻田の裏作として三割位は紫雲英を栽培し或は麥の間作に青刈大豆を栽り裏作に豌豆蠶豆を作り又果樹園、桑園の間作にザードウキケン蠶豆等の綠肥を植えて愈々益々自給肥料増産に努めなければならぬ。又養蠶養鶏等により自給肥料を増産して一つは美田を子孫に遺し一つは農經營費の重点である肥料の經濟を計り生産費の輕減に資することが重要事であります。優良農家と稱せらるゝ凡ては此の信念を勤勞化し餘儀なき部分のみ金肥を購入







經濟記帳の目的が將來に於ける適確なる改善を得んとするにあり、又次年度の經營計劃の基礎をなすものであるから自ら調査の要項調査の組立等に對し右の目的に適合する様注意せねばなりませぬ左に要点を述べて見やう。

經濟記帳は之を農業經營記帳と家事經濟記帳とありますが記帳の繁を避けるため之を同一の帳簿に記入し後日其仕向先によりて分類整理します。

一、經營資本及資産調査 毎年度の初と終りに農業經營の資本たる土地資本(地目、反別、時價等)建物資本(種目、坪數、時價、維持年限、維持費等)農具資本(種類、數量、價格、維持年限、維持費等)動植物資本(種類、數量、評價、年度末の増減價格等)の調査を爲し置く必要があります。生活方面即ち資産調査に於ても概ね右に準じまして調査致します。宅地とか住宅の様な農事家事双方に關係するものは利用の厚薄程度によつて歩合を定めるが普通折半して兩方に計上します。

二、現金出納簿 は表中に家事と農事との區別欄又其收入先又は仕向先が稻作であるか養蠶か麥か牛鶏等、又家事にありては教育費であるか公課負擔、飲食其他の區別の記號欄を置き後日其記號によりて之を集計するに便じます。例へば稻作記號の收入支出のみを集計して稻作の收支を知り飲食費の記號欄の支出を集計して飲食費總額を知るに便ずるのです。

三、現物出納簿 農家生産物を種目別に其現在數量を記入し之を家事向に或は農業用或は販賣用に

支出の事實を明瞭にし以て反當り生産の狀況、自給の狀況、農産物の現在高、年度末の現物評價等を知るに價する。

四、勞働調査簿 家族の勞働高、勞働の農事家事其他仕向先の内容、勞働分配の狀況等を調査し以て勞働能率の増進、勞働分配改善の資料を得んために此の記帳は極めて必要である。即ち従業者名毎に農事家事、更に農事には稻麥蠶養畜等各別に記號して其従業量を十分率によりて記帳するのである。而して之を集計して旬別に一年間の勞働分配表を作製し或は作物別に摘出して反當り勞力數を知り或は家族別、農事家事別に集計して其勞働上の欠点を知るに供するのである。勞働記帳は季節により地方習慣の一日勞働時間を一〇として従業率を記入し又總集計には家族の能率を其能力に應じ一より一〇迄に定め勞力集計の便とする。

以上の四項目は極めて重要な調査記帳事項で之を年度末に調査集計し年度始と相對照して農業經營なり農家經濟の成績を具体的に知ることが出來又各主要なる生産要素毎に其經濟事實をも知ることが出來る。且つ我國農業經營上尤も重要な勞働の内容分配の狀況を明瞭ならしめ吾家の進展上何處に缺陷があるか、何れを改良の重点とすべきか等に對し農家自らが現實的に之を覺り茲に初めて翌年度の改良計劃即ち農業經營の設計書も出來年々記帳を繰り返すに従ひ愈々進路を明確にし所謂豫算生活の實現が出來るのであります。



#### 第四 農業經營改善の進路

以上農業經營の改善に就き卑見を述べたが、惜て如何にして多數農家に廣く經營改善の實を揚げしむべきかを考ふる時農家は何としても經營上隣りと交渉を持たぬ様な舊來の孤立的障壁を徹廢して隣保と共に相寄り相携ひ所謂學村共榮主義の上に立脚するのなければ農業經營終局の改善を望み得ないと思ひます。即ち農業經營改善の普及には町村農會產業組合の振興、實行組合の普及活動を重要と存じます。

我國の如き小規模なる農業組織にして而かも複雑なる組織の元に在りては常時農家の相談相手として懇切に指導する町村農會技術員設置と町村農會の事業進展を必要とし經濟機關としての產業組合は金融の圓滑を期する上に農業用品の購入、生産物の販賣處理する等農業經營改善上其發達を希望してやまぬ。更に農會なり產業組合なりの事業の實行機關として實際の環境に即したる農家の改善達成のために従來農會の奨勵する實行組合の普及發達を緊切と思ひます。而かし茲には此等の詳細を述ぶる餘裕を持たぬから單に農業經營改善の進路の上に特に重要と認めます三項に就き御話して本講を終りたいと思ひます。

#### 一、農業經營の共同化

小農組織と大農組織とは各々經營上に得失があります。我が國の如き小規模の農業經營にありては一、高價な進歩した改良農具或は役畜の利用が充分に出来ないから經營の能率が揚らないこと。二、一農家が各種の動植物を極少に栽培飼養するから勢ひ無駄な勞力費用を要すること。三、多角經營のため各種多くの技術を要するのに小農組織の結果之等の智識が低く且つ遅れ勝ちなること。四、生産品が不統一であり従て商品としての價値が低きを免れぬこと。等のため常に生産費を多く要して而かも生産品の價格が廉きの欠点があり勞働の割合に多くの所得が揚らぬことが我國農業の一大欠陥と認めらるゝ、而して之等の改善は大規模農業の特徴を取入れること即ち隣保共同して其欠陥を補ふの外ないと思ひます。我國の農村組織は農地分散農家集團である。農村の隣保は過去幾百年又未來永却の隣保であるから此の隣保共同の精神を根底とし愈々涵養修練して農村百般の改良を達せんとする理想の元に設立せられた實行組合に於て、新農業の經營即ち經營の共同化に精進し以て技術の向上、改良農具、役畜の利用勞力の能率増進をなすことが我國農業經營改善第一に進むべき路と信じます。然し茲に所謂農業經營の共同化とは絶對的の意味でなくして小農の特徴を保存せる共同化、即ち部分的共同化、事業々々の共同化の意味であります。小農經營の特徴は家族の凡てが常に企業的精神の元に勤勞に従事することにあると思ひますから我國に於て稻作なり養蠶な



りの絶体的共同化は却て農業の趣味を減殺し或は單なる労働者として家族乃至従業者の企業心を滅却し我國農業の眞髓を亡ぼすことになりはせぬかを憂ふるものであります。斯の故に農家の個々に或る程度の企業的或は技術的改善工夫の餘地を興ふる範圍の共同化例へば稲作に於て採種、選種、苗代、挿秧、肥料配合、除害、糞摺、販賣、等の共同の如き養蠶に於て蠶種の儲青、稚蠶飼育、蠶病消毒、稚蠶桑園、産繭販賣の如き西瓜の品種、肥料の統一、病虫害防除、栽培の集團、販賣の共同の如き養鶏に於て孵卵育雛、飼料配合、販賣の共同の如き等であります。而して此等事業の統制指導は組合員中技能の秀でたる者をして各々一人一役主義を以て分擔的に主任を定め各其分擔事業に常時研究精進して之を計劃し之を指導して、經濟的生産増殖、生産品の統一を圖り益々其進歩を期することを主眼とするものであります。

参考のため縣農會が昭和四年以來指導せる海草郡和佐村千且實行組合の部分的共同經營の成績を示せば左の通りである而して同組合は稻作共同經營の結果餘剩勞力を生じたるため之を専ら組合員の製繩事業を起し各自競ふて勤勞主義を徹底し現に一戸に付少きも五十圓多きは三百圓の年産製繩收入を揚ぐるに至つた更に共同の結果畜牛が收支の欠陥著しきを發見し其肥育事業を起し延ひて厩肥の生産を激増し之れが管理に一段の發達を見昭和五年財團法人富民協會より本縣唯一の模範として表彰の榮冠を荷はれたのである。

海草郡和佐村千且實行組合作業一覽（昭和五年度成績）

作業名	數量	従業者數	實績		備考
			所要勞力(延)	戸別經營に對する餘利	
共同苗代	一町〇三	四〇戸 六七人	人力 一二二日一 畜力 二六日二	本田反當 〇日二五 同 〇日〇五	坪四合播所要糞總量九石三斗 一戸當糞約一斗の節約あり 共同以前二石八(七俵取り) 收量 共同 三石一(一割一分増) 平均 六五 年三石四 年三石一
共同田植	四九町三	四〇戸 一二七人	人力 九三五日三 畜力 七九日二	反當一日九 同〇日一六	共同前田植期間他村よりの雇入れ高 延一〇〇人(賃銀一六〇圓)を相互間 にて融通水争ひの根絶病氣等家事上 支障ある家庭も順調進捗昭和七年度 は一人一日代播苗取を併せ六畝五を 示せり
親共同調製	玄米 一、六九六石三	四〇戸 一〇六人	人力 一八一日四 機械 三三二時六	石當 〇人一一 機械 一時間 徴收 五石一 一俵一〇錢	七年設計三相モーター二馬力設置 玄米一俵 電力 四錢九 調製費 電力 八錢四 一五錢〇
麥同	玄麥 二〇五石〇	三五戸 六五人	人力 二六日六 機械 六四時一	反當 〇人一三 機械 一時間 徴收 三石二 一俵二〇錢	電機動力 一三錢五 一六錢六 二五錢〇



製總と共同販賣	二八、三五〇貫 四〇戸 （實額五、七〇九 圓八）	一二五日	個別販賣に 比し 差益約一割 一三圓〇〇	同一戸當生産高 七〇九貫 最低五〇圓 最高三〇〇圓 製總機は共 同購入 七年度より三 相二馬力南木 式仕上機 により共同再 製の上販賣
藪の共同販賣 （價額四、〇七七 圓）	一二、二五一貫 二七戸	二二日五	同約五分 七圓〇〇	競争入札 一戸當生産 四七貫 一五一圓
肥料共同購入	三、九六九圓 四〇戸		同 四圓九六分	競争入札 一戸當購入高 九九圓
同 粉 砕	六、二八〇貫 四〇戸	機械 三二時間 人力一〇人	大豆粕一枚 五錢 鯀粕一呎 一五錢	徴收料 大豆粕一枚 五錢 鯀粕一呎 一五錢
同 配 合	五、五四〇貫 四〇戸	一九日七 一人一日 二八一貫	〇日八	
牛の肥育と 共同販賣	二五頭二五戸	販賣總額 三、七七五圓 購入總額 三、〇〇〇圓	從前に比し 一頭平均利 益二圓増産 既肥の約三 割に製糞作 業に關連し て有機肥料 欠乏補填	藥劑の共同設備 家畜保險實施 集合厩肥會建築一戸分六圓一棟完成

計	人力 一、四二日六 畜力 一〇五日四 機械力 四二八時七	人力 一、三日八 畜力 五日六 及び 五四圓〇二
備考	<p>尙附帶事業として、米麥共同採種（採種粒五十石組合所要以外は粗種として販賣） 共同精米（七年度よりは電力による一俵九錢四—曾搗は一〇錢雜代一二錢計二二錢にして一二錢六の差） 病虫害共同防除、雜糞集合同育、紫雲英種子の共同販賣、農具、蠶種、蠶具並に家事用品の共同購入 （家事用品購買高約五百圓個別取引に比し一割五分安年九〇圓一戸當利差二圓二〇）米麥增收品評會、農閑 農業講座等併せ行ふ。</p> <p>附—組合所有設備（但し昭和七年度現在）</p> <p>建物 倉庫 一棟 作業場兼事務所 一棟 農具 野田式根搗機 一臺 尾上式大豆粕粉砕機 一臺 南木式細仕上機 一臺</p> <p>久保田式發動機 一臺 同歩摺精選機 一臺 環流式精米機 一臺 バーチカルポンプ 一臺</p>	

## 二、生産物販賣の組織化

交通運輸機關の發達するにつれて生産地たる農村と消費地たる都市とは漸次に近接し農業組織の上  
上に販賣を目的とする動植物の生産は益々多きを加ふる事になり、又貨幣經濟の時代に於ては農家



の現金支出の増加は愈々現金収入の増加を期せねばならぬ。苟くも販賣を目的として生産する以上其生産物は之を商品化し又如何にして販賣するかを研究する事が極めて緊切であります。従來の如く農家は單に生産のみに没頭して販賣は其職分でない様な觀念を以て庭賣をなし甚しきは青田賣山賣などの幼稚なる賣り方で満足する様では獨り農家の収入を著しく減する計りでなく、やがて其生産は市場の嗜好より離れ折角の主産地も他に奪はれ遂に敗滅の悲運に陥ることとなる其實例決して乏しくないのであります。實に今日は販賣が生産の改善發達を促がし奢る主産地は努むる新産地に其地盤名譽を奪はれる時代になりました。農産物の商品化には

一、消費者の嗜好に適すること

二、品等名稱荷造の統一すること

三、大量に生産すること

四、主産地と出荷期の相衝突せぬこと

等は極めて重要な事項であります。

如何に販賣せんがために生産しても消費市場の嗜好變遷に添はぬものでは到底市場に高値の賣行きを齎らさぬ交通開けざる時代の遺物として農村の宅地に随分柿其他の果物類があるが全く品種栽培法等が不良のため何等の商品的價值なく空しく親戚知己への贈り物位に止るものある如きは全く生産の商品化に醒めざる結果であります。

申す迄もなく生産物が消費者の嗜好に適することは消費市場を知ることであり消費市場を知ることとは自己の生産物は必らず自己が消費地に出荷して其賣行狀況を精査することで行なければならぬ荷も生産物を地方仲買商に庭賣山賣等を敢てして居る事は到底消費者の好む生産は出来ないのであります。

又生産物の販路が一部地方に局限されて居たり或は其品物の内容を一々見なければ取引が出来ない様であつたり、同一名稱の品が大量に揃ふことが出来なかつたりする様では販賣は必らず劣敗者となり殊に今日中央卸賣市場法發布以來六大都市には各々中央市場が出来地方都市にも本法によりて中央市場が出来つゝある即ち消費都市に於ては消費配給設備が合理的になるに連れて取引が極めて敏捷を要するの時代において農家個々の生産物は相當大量に纏められ而かも品等名稱荷造が統一されて一々現物を調べずして取引が出来る様の信用があり消費地の需用に應じ幾何でも如何なる地方へでも出荷することが出来る様の統制設備が緊切となりました。

如何に品質優良なる生産品でも他の主産地と同一の時期に市場に出廻る場合は勢ひ供給過多に陥り市價を低落し有利なる販賣が困難となりますから常に同一生産品の他の主産地に注意を拂ひ或は市場出廻期の消長を研究し其虛を突くの心得が亦生産研究上重要と思はれます。

農業經營を多角的ならしむるため各種商品的生産を計劃する場合に今日個人々々に少し計りの生産をなすことは大量的生産の原則に反し販賣上行詰る例が多い故に今後は苟くも有利な作物と認め



而かも販賣のための生産である以上必らずや一村一地方から最初より相當量の生産を計劃すること  
が必要であります即ち近年各地に集團栽培、集團獎勵の叫ばるゝ所以であります。

之を要するに販賣を目的とする農産物は先づ販賣組織を前提として考へなければならぬ從來の様  
な無意識に生産して後販賣を如何にするかを研究する様では已に晚いと思ひます。各町村には速か  
に販賣の組織設備をなし例令宅地畦畔等より産する少量の生産でも之を一ヶ村に集め品等の検査荷  
造統一をなし大量として市場に販賣斡旋する事が農村改善の重要事であります。即ち吾々が農家生  
産物出荷組合の普及振興を極力獎勵する所以であります勿論吾々は法律に據る完備せる販賣組合の  
設立を望むものであるが差當り簡易なる方式である出荷組合を奨むるのであります。而かし町村單  
位の販賣組織では今日の完備せる中央市場組織に對し或は輸送上に關し或は全國地方都市に進出  
する上よりして各種の方面から之を郡市に聯合し更に縣に聯盟して其統制を期する事が將來農家生  
産販賣改善上の進むべき路と思ひます。斯くして合理的農業經營改善の進展に資するのであります。

### 三、農村産業計劃の樹立

現下の農村經濟は實に窮迫の極に達して居り其結果農家は失望に沈淪し何等の勇氣なく向上打開  
的の信念を缺き前途に光明を有せざる其場稼ぎの有様と評されても亦止むを得まいと思ひます。斯  
くも窮迫せる農村の振興は政治的政策に待つもの多くあるは申すまでもないが而かし幾百の良政も

農村民が現状の如き沈滯氣分では到底其更生は覺束ない、如何にしても農業に對する嗜味信念に燃  
へ靜穩なる惰眠より衝動の發奮へ個人的より團体的協力統制に、從來の專斷劃一的の天降り案から  
衆智に基づく農村それ／＼の環境に據れる獨持的自發案によりて計劃的實行へと進む事が極めて緊  
切と思ひます。近時唱導されて居ります農村産業計劃は此の意味に於て必要であります。換言す  
れば農村産業計劃とは個々の農業經營改善を一村を一家としての五年十年の農業經營計劃でありま  
す。

即ち農村産業計劃を樹立するに當りましては先づ以て尠くも過去一ヶ年間に於ける農業の現状を  
成るべく正確に數字的に調査する事が第一次であります。此の表はれたる調査數字を基礎として農  
業の基本たる耕地に擴張の餘地、地力増進の方法、土地利用の餘地如何、耕地分配の有様等に對する  
改良の方法、住民の所在勞力に對する農業其他の分配狀況其過不足に對する利用方法、現在の作物  
家畜副業等に對する分配又は改良増殖の餘地、肥料の配給改善の方法、農業自給力擴充の餘地如何  
等に對する改良目標並に改良方策を樹立し尙ほ家政經濟の現状に對しては其改善による現金支出の  
減少の方策、家事勞力の節約方法、或は農村の借金を調査して其負債整理を如何にすべきや如何に  
して矯風、勤勞貯蓄の主義を進展し得るか等の改良方法其達成手段に就きて計劃を樹立し村内各種  
團休一休となり各其活動場面を分擔し村民協力以て之が實現を期せんとするものであります。

右の如くして産業計劃が樹立せられ農村民に將來に對する進むべき確固たる目標達成すべき方法



を徹底し指導奨励することはやがて農家個々に農業経営改善上總括的に方針を授けられたることになり、ますから村内の農業経営は渾然として改善の途に進み、又産業計劃樹立によりて農村の販賣購買金融機關或は農業指導奨励機關實行団体等即ち農村産業組織が整備することになれば、茲に農業経営改善上一轉機を劃し圓滿なる農業の發達を期することが出來得るものと信ずるのであります。(終)

〔附〕

一、穀作地方改良農家事例 (那賀郡小倉村湯川氏の經營、昭和六年度)

(イ) 従業者

經營主夫婦二人きり

(ロ) 經營地面積

田 17.010反

畑 2.925反

計 20.000反

(ハ) 組織

作物—水 稻

17.010反

(ニ) 年次別成績の概括  
因に同氏は曩に富民協會の精農家表彰に當り本縣を代表して其の榮譽に浴した新進篤農家なり

農蠶加工	養 畜	養 蠶	裏 作	裸 麥	小 麥	紫 麥	大 豆	桑 木	柑 橘	柿	苺	春 蠶	夏 蠶	秋 蠶	養 鶏	農蠶加工
網	牛	蠶	豆	麥	麥	麥	豆	桶	桶	桶	桶	蠶	蠶	蠶	鶏	網
400枚	1頭	3枚	10.505反	1.410反	1.210反	1.210反	1.715反	1.000反	0.100反	0.100反	3.5枚	3枚	3枚	30羽	30羽	400枚
300個	農役後三回肥育販賣		畦畔ニ栽培				夏蜜柑及温州三寶柑	柑橘園間作								300個

大正十三年	耕作面積	従業者數	家族勞働日數	農業總收入	農業經營費(家族勞賃を含む)	農家ノ農業所得(家族勞賃を含む)	農業資本ニ對スル利益	農業企業益
	2.3反	4人	630日	3,670円	1,363円	2,307円	1,942円	7,270円
								1,109円











十一月  
計 下 中 上

三、一  
二六〇  
一八二  
五、三  
七五三

十二月  
計 下 中 上

三、〇  
二四六  
三三、一  
六、七

一月  
計 下 中 上

一八一  
三、四  
三、八  
六、三

昭和七年十一月五日印刷  
昭和七年十一月一日發行

發行兼 和歌山市西丁一番地  
編輯人 和歌山縣農會  
鎌田 楠 一

印刷者 和歌山市北休賀町六番地  
關 宗 七

印刷所 和歌山市北休賀町六番地  
關 宗 印 刷 所



終

